



平塚駅
平塚駅は明治20年(1887年)7月11日に開業されました。昭和7年(1932年)、平塚市が誕生した市制施行時、まちはしばらく祝賀ムードにつつまれ、駅前広場にはお祝いのアーチが作られました。

1932-1944

宿場町から商工都市へ

県内の中核都市として歩み始めた平塚市

明治22年(1889年)に平塚宿と平塚新宿が合併し平塚町ができ、昭和4年(1929年)の平塚町と須馬町の合併を経て、昭和7年(1932年)4月1日、「平塚市」は商工都市としての第一歩を踏み出しました。

1932年[年末] DATA 人口39,079人/世帯数7,998世帯/面積10.50km²/人口密度3,722人/km²

市制施行により「平塚市」誕生

江戸時代に東海道五十三次の宿場町として栄えていた平塚のまちは、明治20年(1887年)に東海道鉄道(現在のJR東海道本線)が開通すると、平塚停車場(平塚駅)を中心に発展していきました。

明治22年(1889年)に平塚宿と平塚新宿が合併し、平塚町ができます。同年に須賀村と馬入村が合併し、須馬村となり、昭和2年(1927年)には町制を施行し、須馬町ができました。平塚駅が須馬町に近い平塚町の東側にあったことから、交通から産業に至るまで両町のつながりは親密になっていきます。そして、昭和4年(1929年)、平塚町と須馬町が合併しました。

昭和7年(1932年)4月1日、平塚町は市制を施行し「平塚市」が誕生します。神奈川県内では横浜市、横須賀市、川崎市に次ぐ4番目の市となりました。発足した平塚市は、須賀漁港の修築や下水網の完備などの将来計画を立案し、商工都市として、また郊外住宅都市として歩み始めます。

発展を遂げる平塚市でしたが、昭和16年(1941年)に太平洋戦争が始まると、市内には新たな軍施設や軍需工場が次々と建てられ、まちの姿は軍需産業都市へと変貌していきます。

平塚市の主な出来事(1932~1944)

昭和7年(1932年)	4月1日、横浜市、横須賀市、川崎市に次いで、県内4番目の市になる
昭和8年(1933年)	平塚新宿の商店街にすずらん電灯が配置
昭和9年(1934年)	県営水道が平塚市に給水を始め
昭和10年(1935年)	第1回関東市会議長会が開かれる
昭和11年(1936年)	湘南大橋が完成
昭和12年(1937年)	平塚海岸に市営プール開場
昭和13年(1938年)	第二海軍火薬廠内に警塚建碑
昭和14年(1939年)	価格等統制令施行により、市内に粗悪品が出回る
昭和15年(1940年)	県立第二工業学校(現平塚工科大学)が平塚に移転
昭和16年(1941年)	市立図書館が平塚国民学校内に開館
昭和17年(1942年)	平塚保健所が開設
昭和18年(1943年)	平塚工業学校の生徒が勤労動員のため各工場へ配属
昭和19年(1944年)	大野村町制施行、学童疎開が始まる



市制施行 昭和7年(1932年)4月1日、平塚町は市制を施行し「平塚市」となりました。前列左から2人が鈴木清寿初代平塚市長です。

商店街



写真は昭和8年(1933年)頃の、改わいをみせる駅周辺の商店街の様子です。現在の湘南スターモール付近です。

湘南大橋開通



昭和11年(1936年)、相模川に架かる湘南大橋が開通。開通式の際には、待機する自動車と多くの見物人でごわいました。

平塚市役所庁舎



昭和2年(1927年)鉄筋コンクリート造2階建ての町役場として、現在の錦町に新築。市制施行により市役所庁舎となりました。

乗合自動車



昭和19年(1944年)5月に東海道乗合自動車伊勢原自動車、藤沢自動車を合併。翌月、商号を神奈川中央乗合自動車現神奈川中央交通に改称しました。

変わる平塚海岸
平塚海岸は、昔は地引き網によるささやかな漁場でした。大正時代に入ると住宅も増え、人々が夏に海を訪れるようになり、その後平塚町青年団が主催して平塚海水浴場を開設しました。昭和に入ってから京浜地区へ案内ポスターを張り、宣伝に努めました。





空襲後の平塚市内

写真は、昭和20年(1945年)空襲直後の市内の様子です。現在の旧国道1号と不動通りの交差点付近です。
米国立公文書館蔵



祝賀塔

昭和25年(1950年)に「平塚復興まつり」が開催されました。写真は平塚駅前広場に建てられた祝賀塔です。

第1回七夕まつり

昭和25年(1950年)開催の平塚復興まつりは、好評を呼び継続の声が強くありました。これに替わる行事を検討したところ「七夕まつり」が提案され、昭和26年(1951年)7月4日から8日までの5日間、商工会議所の主催で行われました。連日多くの人々が集まり、多彩な行事が繰り広げられました。



競輪場開設

戦災復興の財源確保のため競輪場が開設され、昭和25年(1950年)11月23日から第1回平塚競輪が開催されました。



須賀漁港が完成

昭和26年(1951年)、それまでの自然港を修築し、内港船溜が長さ155メートル・幅80メートル・面積39,435平方メートルの須賀漁港が完成。

平塚市の主な出来事(1945~1953)

昭和20年(1945年)	7月16日、平塚大空襲
昭和21年(1946年)	平塚復興事業所が開設
昭和22年(1947年)	平塚商工会議所が設立。新制中学校創立
昭和23年(1948年)	自治体警察平塚市大野町組合警察が発足。消防署を設置
昭和24年(1949年)	学校定礎式開催
昭和25年(1950年)	平塚復興まつりを開催。競輪場竣工
昭和26年(1951年)	第1回七夕まつりを開催。須賀漁港完成
昭和27年(1952年)	市歌制定
昭和28年(1953年)	第1回平塚市文化祭開催



学校定礎式

大空襲から4年後の昭和24年(1949年)5月24日、各学校の校地や学区が確定したのを受けて、見附台公園に市内の小・中・高校の学校職員・児童・生徒全員が参加し、式典が開かれました。集まった児童・生徒たちは、交付された校旗や礎石などを自分たちの学校へ運びました。

1945-1953

第2次世界大戦の空襲から復興へ

焼け野原となったまちから再出発した平塚市

昭和20年(1945年)7月16日、平塚大空襲。市街地の約6割を焼失しました。深い悲しみを抱えながら、人々はまちを復興させようと意欲を奮い立たせました。

1945年[11月1日] DATA 人口39,165人/世帯数8,698世帯/面積10.87km²/人口密度3,603人/km²

大空襲から復興を目指して

昭和20年(1945年)7月16日、平塚に火の雨が降り注ぎます。B29爆撃機133機から投下された焼夷弾は、約1040トン。あっという間にまちを火の海に変えていきましました。大規模な空襲は翌17日の未明まで続き、死者362人(博物館調べ)、重軽傷者268人、罹災者35336人、全焼8263戸(神奈川県警調べ)の大きな被害を受け、市街地の約6割が焼失してしまいます。そして、この空襲からわずか1ヵ月後の8月15日に終戦が告げられたのです。

戦後、平塚市は戦災復興都市の指定を受け、昭和21年(1946年)3月、県土木部の事務所として「平塚復興事業所」が設置されます。そして、昭和25年(1950年)7月に復興のめどが付いたことから、市民の慰安のため「平塚復興まつり」が開催されました。このまつりは翌年から七夕まつりとなり、現在でも平塚市の一大イベント「湘南ひらつか七夕まつり」として続いています。

昭和25年(1950年)、学校再建などの財源確保のため競輪場を建設し、11月に第1回平塚競輪が開催されました。

私たちは、平塚市の現在の豊かな暮らしの原点に、空襲による大きな犠牲と、そこから立ち上がった人々の思いがあることを忘れてはなりません。

市民センター



市制施行30周年を迎えた昭和37年(1962年)、市民センターが完成しました。同年の七夕まつり期間中には、市制施行30周年と市民センター落成を祝う記念式典が行われました。

平塚市の主な出来事(1954~1972)	
昭和29年(1954年)	旭村と合併
昭和30年(1955年)	第10回国民体育大会で4競技を開催
昭和31年(1956年)	大野町、神田村、城島村、金田村、土沢村、岡崎村と合併
昭和32年(1957年)	金目村と合併、現在の市域に
昭和33年(1958年)	金旭中学校に市立学校プール第1号が完成
昭和34年(1959年)	駅西口乗降口と跨線橋が完成、湘南平が開園
昭和35年(1960年)	第1回産業まつりを開催
昭和36年(1961年)	平塚・厚木間に新県道が完成
昭和37年(1962年)	市民センターが完成
昭和38年(1963年)	駅前ロータリーに人魚の像「海の讃歌」が完成、東海大学湘南校舎が開校
昭和39年(1964年)	市内電話が自動化
昭和40年(1965年)	公共下水道事業を決定、中央地下道が開通
昭和41年(1966年)	大久保公園が開園
昭和42年(1967年)	湘南海岸公園に新プールが完成
昭和43年(1968年)	県平塚合同庁舎が完成
昭和44年(1969年)	小田原厚木道路開通、平塚料金所で開通式
昭和45年(1970年)	新図書館(現中央図書館)がオープン。歩行者天国が実現
昭和46年(1971年)	県立平塚青少年会館が開館
昭和47年(1972年)	五領ヶ台貝塚が国の史跡に指定される

オリンピック

昭和39年(1964年)に平塚を通過する東京オリンピックの聖火。オリンピック大会の主競技場で会期中燃やし続けられる聖火は、ギリシャのオリンピアで太陽を利用して採火された火をリレー式に運んでいきます。聖火リレーの中継点の平塚で、平塚の青年によるチームと交代して聖火をつなぎました。



平和慰霊塔

昭和40年(1965年)、八幡山公園内に平和慰霊塔が完成しました。塔には、明治以来の戦争犠牲者2,400人の霊名簿が納められました。

歩行者天国



安心して買い物ができる歩行者天国は、湘南地方で一番早く、昭和45年(1970年)8月に実施されました。当時の国道1号の中心商店街(現湘南スターモール)と紅合町の繁華街を、日曜日の午後1時から6時まで車を通行止めにし、商店会や警察の協力のもと、のびのびと楽しめる空間をつくりました。



湘南平

昭和34年(1959年)、レストハウスが完成し、湘南平が開園しました。市内を一望できる湘南平からの景色は、現在でも市内有数の観光地となっています。

平塚市合併

昭和29年(1954年)7月15日、平塚市は農業を主とした旭村と合併しました。以後、周辺町村との合併が進められ、昭和32年(1957年)10月1日に金目村と合併し、現在の市域になりました。

1954-1972

合併からのスタート

複合都市へと発展し、活気づく平塚市

まちの人々が協力し合い、復興に向け取り組む中、周辺町村との合併が進められ、昭和32年(1957年)に現在の市域となります。自然環境に恵まれた、商・工・農がそろった複合都市となりました。

1954年[10月1日]DATA 人口65,669人/世帯数14,113世帯/面積18.17km²/人口密度3,614人/km²

市域が広がり
活力のある都市へ

戦後、焦土の中から再び復興へと力強く歩み始めていった平塚市は、昭和29年(1954年)に農村地帯が広がる旭村と合併します。昭和31年(1956年)には、大野町、神田村、城島村、金田村、土沢村、岡崎村と合併、翌年の昭和32年(1957年)に金目村とも合併し、現在の平塚市の市域になりました。1町7村の合併を経て、面積は約68平方キロメートル、人口は10万人を超え、商・工・農を含んだ複合都市へと発展していったのです。その後、商工都市として発展した平塚市は、首都圏のベッドタウン化で人口が増え、まちは一層活気づいていきます。海軍火薬廠の跡地には工業地帯ができ、その後も市内に馬入工業団地をはじめとする大型の工業団地が完成します。公共下水道事業の開始や公共施設の開設など生活基盤が整備され始めたもののこの時期になります。こうして、平塚市は復興へと向かい、昭和42年(1967年)に、21年の歳月を要した平塚戦災復興土地区画整理事業が完成し、それを記念して八幡山公園の一角に記念碑が建てられました。東京オリンピックの開催、高度経済成長に後押しされながら、平塚のまちはさらに発展していきます。